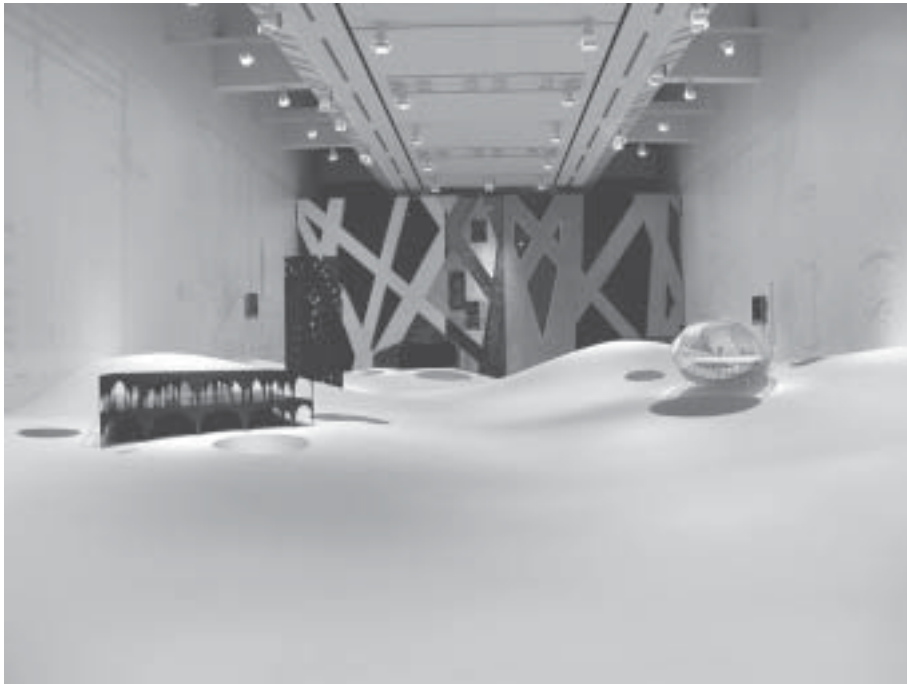


伊東豊雄 建築 | 新しいリアル

新宿 初台 オペラシティ アートギャラリー
10月7日 から 詳細は次号にて。



第8巻第9号
通巻第93号

(二面に続く)

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/>

投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

前回、我が家のちよいでぶ猫の満腹あるいは空腹を巡る幸福とは……などということにほんの少しだけ触れた。それが何らかの縁となったのか、数日後の深夜、ごく近所で捨て猫が発見される。よちよち歩きのもののごとくゆえ、雨上がりの濡れた草叢で朝までの冷え込みに耐えられるか否か疑わしいところであったし、縦んば、無事に日の出を迎えられたとしても、目敏い鳥が見逃すはずはない。兎にも角にも、保護すること相成り、結果、彼女は私の家の一員となるに至った。

ちび猫はすぐに環境に慣れ、満足至極の体であるように見受けられ、それ自体は結構なことであるものの、先から居るお猫様にしてみれば、自分のテリトリーに他所者が侵入してきたことになるわけで、気分を害すること甚だしい。一方の幸福が他方の不幸となること、これは間々あることであり、少しも珍しいことではないけれど、ここは何とか互いに譲り合い、できれば、仲良く、さらに望むなら、愛し合い、助け合って生きていってほしいものだろうか、と願う。

猫の世界だけの話ではない。人が二人以上いるところ、そこには何らかの差異が存在し、大なり小なり、利害の不一致が生ずるもの。どう

対処するのは人それぞれだろう。暗黙の気遣いによって、あるいは、言葉のやり取りによって、あるいは、少々のどつき合いによって、などなど、方法は様々なれど、何らかの妥協点を見つけないことには、この世には六十億から十億人いるから、今この瞬間にも、世界のあちこちで、そのようなやり取りが行われており、大きに満足だったり、あるいは、途轍もなく不満だったり、あるいは、どうでもいいけどさ、と、色んな人が色んな結果を抱えて色んな気持ちになっていることだろう。

利害関係の処理というのは、思惑が錯綜し、煩わしくなることも少なくない。面倒嫌いな私としては、できれば避けて通りたい。しかしながら、放って置くわけにもいきませんしなあ、という場面も少なくはなく、あれこれと振り回される日常がある。それにしなだつて、下々の中のかなり下の方での出来事ゆえ、私個人にとっては大きな事件であったとしても、多くの場合、世間にはそよとも風が吹くようなこともない。

これが天下国家の話となると大変だ。そも国などというものは、あやふやなものである。私の心だつて相当にあやふやでコントロールするのに一苦労だが、言ってみれば、そのようなあやふやな個人の集積が国というもの、国民の総

(最終面に続く)

今日の紙面から

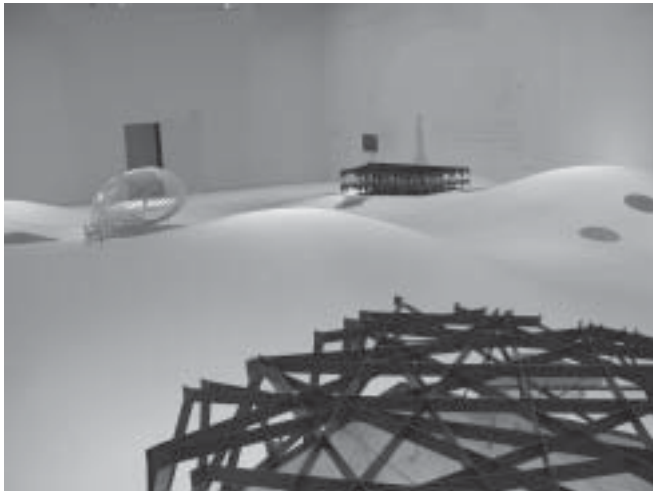
- 二面(建築)
- 新しいリアル
- (英語)
- 遺憾の意
- 三面(からすライブラリー)
- CD『Why - Hate Wame』
- 映画『テス・ノート後編』



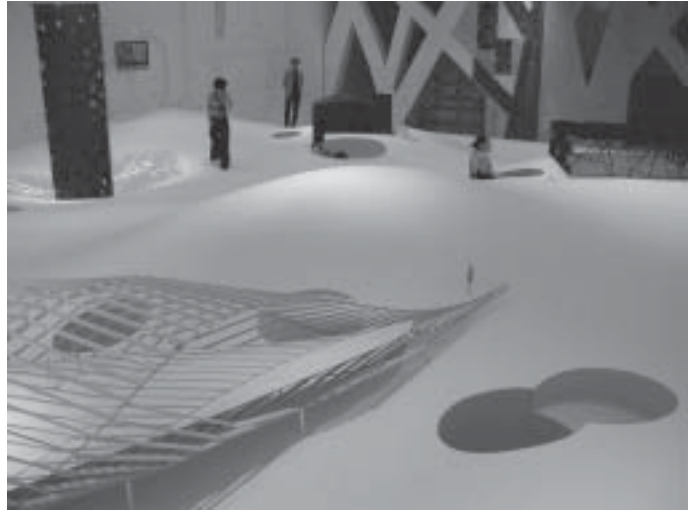
からす新聞は××××

が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。

誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。



伊東豊雄 建築 | 新しいリアル



遺憾の意

Sorry, it's just regrettable.

公式な場で良く使われる「遺憾」。大辞林によれば、「思っているようにならなくて心残りであること。残念な、そのさま。」「思っているようにできなくて」ではなくて「ならなくて」。自らのミスに対してはその責任を曖昧にし、他人に対しても遠慮深く責任の追求を曖昧にする。そんなわけで政治経済各界ご用達の便利な言葉である。

日本人は責任を取らない、という声は内外から良く聞かれるが、この「遺憾」、英語ではどう訳されているかという、実のところ、訳語はかなり多い。つまり語そのものの意味がすでに曖昧なのである。

regrettable (後悔、残念) deplorable (嘆かわしい、悲しい) disappointing (がっかり) shame (恥) unfortunate (不幸) unsatisfactory (不満)

補欠: sorry (反省、残念、気の毒)

これらすべてがオール・イン・ワン。すごいぞ、遺憾。

上記のうち、もっとも広く流通しているのが **regrettable**。sorry に似ているが、政治家などの言う「遺憾に思います」に sorry を当てる記者はまずいない。だって謝ってないから。だから sorry は補欠なのだ。そこで直訳はこんなことになる。

I regard it as **regrettable**.

一方の日本側は上記リストの語をどう訳しているか。近頃見かけたのは deplorable の動詞形 deplore 「遺憾に思う、嘆き悲しむ、非難する」。7月にブログで紹介した国連安保理決議1695号にこんな一節があった。

*Deplo*ring the DPRK's announcement of withdrawal from the Treaty on Non-Proliferation of Nuclear Weapons, 「北朝鮮による核兵器の不拡散に関する条約からの脱退に関する発表を遺憾とし、」

訳したのは外務省。朝日新聞もこれに倣っていた。しかし、非難の気持ちが全面にあるディプロマは、ただ残念に思うリグレットより格段に強い言葉である。どっちも遺憾じゃディサイティングだ。安保理は遺憾に思う程度なの？って日本国民は誤解する。日本人の「遺憾」癖が直ることはなかるうが、せめて日本語の訳語ぐらゐは正確を期して欲しいと願うのである。遺憾だ。

(望月)

おまけ。こういうのありなのか。外国人向け日本語用例集“A Handbook of Common Japanese Phrases”編著:三省堂(2002)に、I accept full responsibility for this.

「私はこのことについて全責任を負います」

の訳として、

Watashi no futoku no itasu tokoro de gozaimasu.

と並んで、

Makoto ni *ikan* ni zonzimasu.

とある。潔く全責任を負おうとしている人に、「遺憾」を使いましょうって教えるなんて、遺憾だなあ。

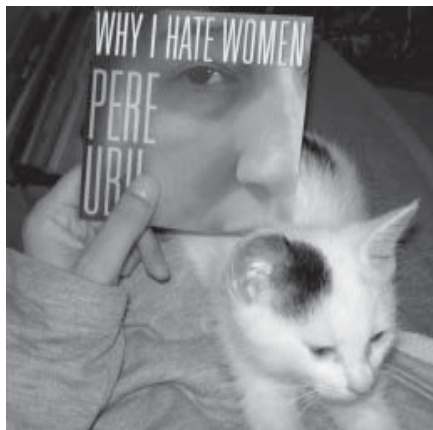
Why I Hate Women

Pere Ubu

Smog Veil Records、2006年、SV59CD



CDs



私が初めてPere Ubuに触れたのは1980年、Rough Tradeから出た『the Art of Walking』でのJ.J.・マリー・ウェイヴの大波が弾けるばかりの勢いで押し寄せ、その多様な音楽性に目が眩みかねぬほど、といった頃合い。渦中において、自分たちの音楽にどんな未来が待っているのか、ほんとうに楽しみだった。どんどんどんどん新しくなりたいてね。

で、四半世紀が経過した今、どうなっているかというと、多少の変様はあるものの、何のことはない、相も変わらず、あさがやんず節。

Pere Ubuのほやほやの新作が到着したけれど、ここにあるのは、やはり、相も変わらずPere Ubu節。パンクだニュー・ウェーブだアヴァンギャルドだなんてこたあ、しゃらくせえ。やりたい音楽をやりたいように続けてきた結果がここにあり、道具やテクノロジー、スタイルなんぞが少しばかり変わるうとも、変わるはずのないPere Ubuの姿がある。

このアルバムを聴いて、ぼくは何だかとても勇気が湧いてきた。どんな？

(全六)



デスノート・後編 (Death Note・the Last name)

2006年公開

監督：金子修介

原作：大場つぐみ・小畑健（作画）

出演：藤原竜也、松山ケンイチ、戸田恵梨香、片瀬那奈、鹿賀丈史、

中村獅童、池畑慎之介

主題歌：「Snow」RED HOT CHILI PEPPERS



Films

The human whose name is written in this note shall die. (このノートに名前を書かれた人間は死ぬ。)

数号前に前編の紹介をした「デスノート」の後編。原作は単行本12巻で完結するが、劇場映画の場合は前後編併せても4時間前後。当然、映画的に変更を加えての制作となる。そこで失敗する映画のいかに多い事か。しかし、この作品に限っては大いに評価出来るだろう。原作のテイストを守りつつ、原作とは違った形での結末。映画用のトリックも追加して整合性を保った事は十分評価に値する。

今回は主人公対敵役の一騎打ちで、どちらが勝つかという点に絞られており、負けた方の名前が最後の名前「the Last name」としてノートに書かれるといった流れである。

流石に、前編を見ずに後編だけでは楽しめないとは思いますが、原作は読まなくても映画だけで十分楽しめる。さらに、原作を読んでいる場合は、その知識が入っているだけに、先入観を裏切られ映画用の結末で楽しめるようにもなっている。尚、前編公開時には単行本の累計売り上げが一四〇〇万部だったが、現在では二一〇〇万部を突破したとの事。

最後になったが、以前にも絶賛した死神「Ryu」も健在で、その他にも二種類の死神が登場するが、こちらも原作を忠実に再現しており見所の一つと言えよう。

(小張寅僧)



万年筆なら dani

http://danijapan.com/

Kanna
bar&kitchen

営業時間
平日・土曜日 11:30~15:00 / 17:30~25:00
日曜日 17:30~25:00

定休日
毎週火曜日 & 毎月第3日曜日

中野区新井1-30-6
第1三宮ビル1F
Tel : 03-5343-1316

bar&kitchen kanna

お一人でも気軽に楽しめる、食事もできるShotBarです。ビール、パーボン、焼酎からカクテルまで、豊富なお酒と、季節の素材を取り入れた手作りのオリジナル料理を、4/500円~と手頃な料金でご提供いたします。

木とテラコッタを基調にしたギャラリー風の店内は舞台スタッフの手作り。ぬくもりの中に遊び心が溢れ、くつろげます。作品の展示、音楽、演劇等のイベントも企画スペースの提供も行っておりますので、興味のある方はご相談ください。各種パーティー、打ち上げにも最適です。

意が一つに纏まるはずなどなく、だからして、国民の為に身を粉にして働くはずの、政治家やそれに付随する幾許かの人があれこれと算段して、どこにかどこにか運営していくのである。そんな厄介な仕事を引き受けてくれて、政治家さんたちというのはいい人たちだよ、などと思いたいが、世間を見回してみると、良き志は微塵も存在しないとまでは言わないけれど、多くの場合、ビジネスとして政治家を選んだという輩が多そうだが、国民の僕という皮を被ったハイエナとでもいうような。

それで、政治家という人たちはどうするのかという、自らの利害を優先させながら、一応は国家にもあんまり損が出ないような方向でね、などという具合に舵取りをしていくのでしょうか。そんな怪しい船頭の操る国同士があればこれと交渉して、話が纏まったり纏まらなかつたり。纏まらなければどうなるのかという、

(一面から続く)

そりゃ、どつき合いですよ、とどのつまりはどうしますか、面倒ですなあ、やっちゃいますか、戦争は案外儲かるしね、などという話し合いが行われるのかどうかは知らない。話し合いで済まなきゃ、最後は、どーん、とね、空爆でもしちゃいますかあ、あははのはー、なんて、まさかそんな会話が交わされているはずはない……と信じたいものだが。

見回してみ給え、人類は性懲りもなく今日も戦争、明日も紛争。つまり、政治家たちの命令に従い、たくさんの命の奪いっこれが続けられているわけである。

こんなことを考え始めると、子猫の命を一つ助けようが助けまいが、詮無きことよなあ、嗚呼、何と虚しい世であるか、と嘆きたくなる。その助かったお嬢ちゃんも、先住のちよいでぶ猫様も、私も、爆弾なんぞがどーんと飛んでくりにゃ一溜りもない。すごいことだなあ。そんなものが頭上に落ちてきたら、私たちは全く

の無力である。何が起きたか気づく暇もなく倒れてしまうだろう。その程度のちっぽけな存在でしかない。陰々滅々鬱々。

自分のことを、どちらかというとな楽観的な方だな、いや、寧ろ、楽観的に過ぎるぐらいのお気楽野郎なのではないかねと思ってきたが、近頃、世間がいやに蒼ざめて濁って見える。これは、寄る年波のせい、私の眼球の水晶体が汚れてきたせいなのか、それとも、この世の中が事実、汚濁に塗れ始めているのか。

結局、私たちはできることをこつこつとやり続けるしかないのでしょうか。で、運が悪けりゃ、吹き飛ばされ……って、また気が滅入ってきた。

さて、そろそろちび猫の食事の時間が近づいて参りましたゆえ、本日はこれにて失礼致します。

(全太)



Ken-ichi Shinozaki, architect

Voice : +81-3-3220-0644
Facsimile : +81-3-3220-0640;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp
篠崎健一アトリエ

編集後記
からす新聞第八巻九号(通巻第九十三号)、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発行予定日は二〇〇六年十月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

3771

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

宝仙寺
ファミマ
おうめかいどう
中野坂上駅

3771